

あさひの子

～自分から 自分で～

自ら正しく行う子

大村市立旭が丘小学校 学校だより NO.9
令和8年8月9日 校長 永富 伸介

81回目の県民祈りの日

今年も記録的な猛暑が続いています。そして、今年も8月6日と8月9日をむかえることとなりました。今回で81回目の「県民祈りの日」です。当時小学2年生だった私の父は、81年前の8月9日、長崎市岩川町の自宅で私の祖母と当時4歳であった叔父と被爆しました。爆心地直下でよく助かったものだと言ったことがあったのですが、11時2分頃、三人は玄関にいて、「はだしのゲン」さながら、爆風で倒れた家の柱によってできたすき間のおかげで命拾いしたそうです。母子三人は、その後、長崎市から数日をかけて親類のいる大村市まで逃れてきました。同じくして松原小学校にも被爆して全身にけがややけどを負った80名ほどの方々が運ばれてきたそうです。婦人会を中心とした地域の皆さんが懸命に救護に当たられました。大村市であってもこのように忘れ去られてはいけない出来事があるのですね。



今日は平和学習の一環として「松原の救護列車を伝える会」の皆さんがこうした原子爆弾や戦争の悲惨さ、そして平和の尊さや家族の大切さについて朗読劇で子どもたちに直接伝えてくださいました。7月には4～6年生がリモートによる被爆体験講話として松本美都恵（みとえ）さんのお話をうかがいました。また、全校で平和への祈りを込めた千羽鶴づくりの取組も行いました。松本さんのように御自身の経験を伝えようと尽力されている方々、そして伝える会の皆さんのように後世に伝え続けようと尽力されている方々の思いに触れるだけでも貴重な学びになったのではないのでしょうか。今日は各御家庭で平和について考え、語り合う1日にしてくださると幸いです。



夏休みも振り返りです

早いもので夏休みも振り返りとなりました。幸い、学校に子どもたちに関わる事件や事故の報せもなく一安心しているところです。しかしながら、7月28日（火）の夕方は「令和8年熊本地震」が発生し、尊い生命が失われ、多くの方が被災されました。大村市でも震度4を記録しました。大きな被害こそなかったものの、強い揺れに皆さん驚かれたことでしょう。また、子どもだけで留守番等していたという御家庭については一層心配されたのではないのでしょうか。大村市でも余震が続いています。油断ができない状況下であるということを全職員で再確認して2学期以降も安全を第一に、子どもたちの教育に当たっていきたいと考えます。

夏休み後半も子どもたちが事件・事故（特に水の事故が多発します。）にあうことなく、有意義な夏休みとなりますよう御協力ください。よろしくお願いします。